

例えばこのように過ごすことができます

事例1 70歳代男性、脳梗塞で右半身まひ、寝たきり

寝たきりであまり動けないけど、施設には入らず自分の家で生活できないだろうか…

定期的に訪問診療します。
医師

家を訪問して、入れ歯の調整をします。口腔ケアについて指導します。
歯科医師

お家の中の環境を見て、福祉用具や住宅改修を考えます。
ケアマネジャー

必要に応じて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が自宅を訪問し、立ったり座ったりなどのリハビリを行います。自立を促し介護の負担も減らします。
リハビリスタッフ

食事や着替え、トイレ介助など、身の回りのことをお手伝いします。
ヘルパー

家を訪問して、病状の悪化や床ずれ・肺炎・関節のこわばりを予防します。
看護師

事例2 80歳代女性、ひとり暮らし、転倒し腰を圧迫骨折、通院・入浴・トイレが困難

痛くて動けない。物忘れも増えてきたし不安だなあ。でも、このまま自宅で暮らしていきたい…

いろいろな相談に応じ、介護認定の申請をします。ご本人の状態に応じた必要な支援を調整します。
ケアマネジャー

痛みの強い間は、定期的に訪問診療します。また、何かあればかけつけます。
医師

外出時に同行します。お風呂やトイレのお世話をします。調理や掃除などの家事をお手伝いします。
ヘルパー

自宅を訪問し、機能低下をしないようリハビリをします。
リハビリスタッフ

ベッドの貸し出しや、ポータブルトイレ・シャワーチェアの購入、洋式トイレへの住宅改修などに補助をします。
市行政

痛くて身動きできないときは利用できます。食事の提供、トイレ、入浴のお世話をします。
ショートステイスタッフ

事例3 70歳代男性、がん末期、在宅酸素・排尿用留置カテーテル使用

妻と2人暮らし。苦しまないで、最後まで自分らしく家で過ごしたい…

つらい症状に合わせて、訪問し治療します。家で点滴を受けることもできます。緊急時には、必要に応じて連携している病院で受け入れを行います。
医師

必要時には毎日でも訪問できます。酸素や排尿カテーテルの管理もします。
看護師

自宅に訪問して、薬の説明や症状に合わせた調整を行います。お薬の効果や副作用がないかなどを確認して、痛みのコントロールの工夫ができるようにお手伝いします。
薬剤師

少しでも長く、口から安全においしく食べられるように、調理方法や食材選びなどをお手伝いします。
栄養士

在宅主治医と日常の様子を情報交換して、症状にあったケアが行われるように調整します。
ケアマネジャー

身のまわりのお手伝いや日々の健康状態をチェックして、ご家族と共に過ごせるようにサポートします。
ヘルパー

事例4 30歳代女性、精神障害のため長期入院していた

退院できてとてもうれしい。でも、生活や仕事、病気のことも心配…

障害者相談支援事業所では、障害福祉サービスや様々な社会資源を組み合わせ、より良い生活ができるようにお手伝いします。
相談支援専門員

家を訪問し、病気の相談にのります。病院とも連絡を取り合い、薬をきちんと飲むようにお手伝いします。ご家族の相談にものります。
看護師

苦手な家事を一緒にします。電車やバスを利用して、買い物や病院受診をお手伝いします。
ヘルパー

生活リズムを整えたり、人とのつきあい方、仕事に就くための訓練などができます。
デイケア・作業所などのスタッフ

家族がいてもサービスは使えるのかしら…